

EMaT

工学系数学統一試験

Engineering Mathematics Test

2024年12月14日（土）

4分野受験 午後1時30分～午後4時10分

3分野受験 午後1時30分～午後3時30分

2分野受験 午後1時30分～午後2時50分

1分野受験 午後1時30分～午後2時10分

* 受験分野は、各大学・高専の指示に従ってください。

受験上の注意

- (1) 机の右上に学生証を提示すること。
- (2) 試験開始の合図があるまで問題冊子を開かないこと。
- (3) 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁、解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- (4) マークには**HB**または**B**の鉛筆（またはシャープペンシル）を使用すること。
- (5) 解答用紙を汚損したときは、手を挙げて監督者に知らせること。
- (6) 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。
- (7) 試験開始40分後から退室を認める。
- (8) 問題冊子は持ち帰ること。
- (9) 気分が悪くなった場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- (10) その他、監督者の指示に従うこと。

解答上の注意

- (1) 解答として最も適切なものを指定された解答群から選び、その記号を解答用紙にマークすること。ただし、解答群の中にふさわしいものが見つからない場合には⑩をマークすること。例えば、**23** と表示してある問いに対して解答記号Ⓒを選ぶ場合は、次のようにマークすること。

23	Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ	Ⓓ	Ⓔ	Ⓕ	Ⓖ	Ⓗ	Ⓘ	Ⓚ	●	Ⓛ	Ⓜ	Ⓨ	Ⓩ	ⓐ	ⓑ	Ⓒ	Ⓓ	Ⓔ	Ⓕ	Ⓖ	Ⓗ	Ⓘ
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- (2) 破線で囲まれた番号は、前に現れた番号であることを表す。したがって、例えば **23** には **23** と同じ解答が入る。
- (3) 解答が数式の場合、**23** は (**23**) という意味である。したがって、例えば **23** の解答が $-x - 1$ の場合、 $x^2 - \mathbf{23}$ は $x^2 - (-x - 1)$ を意味する。
- (4) \mathbb{R} は実数全体の集合とする。
- (5) $\log x$ は x の自然対数、すなわち e を底とする対数 $\log_e x$ を表す。
- (6) $\sin^{-1} x$, $\cos^{-1} x$, $\tan^{-1} x$ は、それぞれ $\sin x$, $\cos x$, $\tan x$ の逆関数を表し、 $\arcsin x$, $\arccos x$, $\arctan x$ と書き表されることもある。各逆関数がかかる値の範囲（値域）は、 $-\frac{\pi}{2} \leq \sin^{-1} x \leq \frac{\pi}{2}$, $0 \leq \cos^{-1} x \leq \pi$, $-\frac{\pi}{2} < \tan^{-1} x < \frac{\pi}{2}$ とする。

目次

第1分野	微分積分	3
第2分野	線形代数	13
第3分野	常微分方程式	23
第4分野	確率・統計	33

第1分野 微分積分

[問 1 ~ 問 5 : 解答番号 ~]

問 1 次の2つの極限值を求めよ.

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{e^x + e^{-x} - 2}{1 - \cos 2x} = \boxed{1}$$

$$\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{\sqrt{x+2} - \sqrt{x}}{\sqrt{x} - \sqrt{x+3}} = \boxed{2}$$

・ の解答群

① 0

① 1

② 2

③ 3

④ $\frac{1}{2}$

⑤ $\frac{1}{3}$

⑥ $\frac{2}{3}$

⑦ -1

⑧ -2

⑨ -3

① $-\frac{1}{2}$

② $-\frac{1}{3}$

③ $-\frac{2}{3}$

④ e

⑤ ∞

⑥ $-\infty$

計算用紙

問 2 (1) 関数 $\sin x$ のマクローリン展開 ($x = 0$ を中心とするテイラー展開) は

$$\sin x = \boxed{3}$$

である. したがって, 関数 $\sin(\sin x)$ のマクローリン展開を

$$\sin(\sin x) = x + ax^3 + \frac{1}{10}x^5 + \dots$$

とおくと $a = \boxed{4}$ である.

(2) 関数 $\sqrt{1 + \sin x}$ のマクローリン展開を

$$\sqrt{1 + \sin x} = 1 + \frac{1}{2}x + bx^2 + \dots \quad \left(-\frac{\pi}{2} < x < \frac{\pi}{2}\right)$$

とおくと $b = \boxed{5}$ である.

3 の解答群

- | | |
|--|--|
| ① $1 + \frac{x^2}{2} + \frac{x^4}{4} + \frac{x^6}{6} + \dots$ | ① $1 - \frac{x^2}{2} + \frac{x^4}{4} - \frac{x^6}{6} + \dots$ |
| ② $1 + \frac{x^2}{2!} + \frac{x^4}{4!} + \frac{x^6}{6!} + \dots$ | ③ $1 - \frac{x^2}{2!} + \frac{x^4}{4!} - \frac{x^6}{6!} + \dots$ |
| ④ $x + \frac{x^3}{3} + \frac{x^5}{5} + \frac{x^7}{7} + \dots$ | ⑤ $x - \frac{x^3}{3} + \frac{x^5}{5} - \frac{x^7}{7} + \dots$ |
| ⑥ $x + \frac{x^3}{3!} + \frac{x^5}{5!} + \frac{x^7}{7!} + \dots$ | ⑦ $x - \frac{x^3}{3!} + \frac{x^5}{5!} - \frac{x^7}{7!} + \dots$ |

4 ・ **5** の解答群

- ① 0
- ① 1 ② $\frac{1}{2}$ ③ $\frac{1}{3}$ ④ $\frac{1}{4}$ ⑤ $\frac{1}{5}$ ⑥ $\frac{1}{6}$ ⑦ $\frac{1}{8}$
- ⑧ -1 ⑨ $-\frac{1}{2}$ ⑩ $-\frac{1}{3}$ ⑪ $-\frac{1}{4}$ ⑫ $-\frac{1}{5}$ ⑬ $-\frac{1}{6}$ ⑭ $-\frac{1}{8}$

計算用紙

問3 (1) 正の定数 a に対して, 不定積分

$$I = \int \frac{dt}{(t^2 + a^2)^2}$$

を求める. まず, $J = \int \frac{dt}{t^2 + a^2}$ とおき, $J = \int \frac{(t)'}{t^2 + a^2} dt$ とみなして部分積分を行うと

$$J = \frac{t}{t^2 + a^2} + 2J - \boxed{6} I$$

となる. ここで, $J = \boxed{7} + C$ (C は積分定数) なので

$$I = \frac{1}{\boxed{6}} \left(\frac{t}{t^2 + a^2} + \boxed{7} + C \right)$$

と求まる.

6 の解答群

- ① a ② $2a$ ③ $3a$ ④ $4a$ ⑤ $5a$ ⑥ $6a$ ⑦ $7a$
 ⑧ a^2 ⑨ $2a^2$ ⑩ $3a^2$ ⑪ $4a^2$ ⑫ $5a^2$ ⑬ $6a^2$ ⑭ $7a^2$

7 の解答群

- ① $\frac{2}{t^2 + a^2}$ ② $\frac{2t}{t^2 + a^2}$ ③ $\frac{2t^2}{t^2 + a^2}$ ④ $\frac{2}{(t^2 + a^2)^2}$
 ⑤ $\frac{2t}{(t^2 + a^2)^2}$ ⑥ $\frac{2t^2}{(t^2 + a^2)^2}$ ⑦ $\tan^{-1} at$ ⑧ $a \tan^{-1} at$
 ⑨ $\frac{1}{a} \tan^{-1} at$ ⑩ $\tan^{-1} \frac{t}{a}$ ⑪ $a \tan^{-1} \frac{t}{a}$ ⑫ $\frac{1}{a} \tan^{-1} \frac{t}{a}$

(2) 不定積分

$$K = \int \frac{dx}{x^3 \sqrt{x^2 - 4}}$$

を求める. $t = \boxed{8}$ として置換積分法を用いると, (1) より

$$K = \int \frac{dt}{(t^2 + 4)^2} = \frac{1}{8} \left(\frac{\boxed{8}}{x^2} + \boxed{9} + C' \right) \quad (C' \text{ は積分定数})$$

となる.

$\boxed{8} \cdot \boxed{9}$ の解答群

① $\sqrt{x+2}$

② $\sqrt{x-2}$

③ $\sqrt{x^2-4}$

④ $\frac{1}{\sqrt{x+2}}$

⑤ $\frac{1}{\sqrt{x-2}}$

⑥ $\frac{1}{\sqrt{x^2-4}}$

⑦ $\tan^{-1} \frac{\sqrt{x+2}}{2}$

⑧ $\tan^{-1} \frac{\sqrt{x-2}}{2}$

⑨ $\tan^{-1} \frac{\sqrt{x^2-4}}{2}$

⑩ $\frac{1}{2} \tan^{-1} \frac{\sqrt{x+2}}{2}$

Ⓐ $\frac{1}{2} \tan^{-1} \frac{\sqrt{x-2}}{2}$

Ⓑ $\frac{1}{2} \tan^{-1} \frac{\sqrt{x^2-4}}{2}$

問 4 2 変数関数

$$f(x, y) = \frac{1}{3}x^3 + \frac{1}{4}y^2 + xy - 6x - \frac{3}{2}y + 4$$

の極値について考える.

(1) 連立方程式

$$\frac{\partial f}{\partial x}(x, y) = 0, \quad \frac{\partial f}{\partial y}(x, y) = 0$$

の解は $(x, y) = (3, -3)$ と $(x, y) = \boxed{10}$ の 2 つである.

10 の解答群

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|------------|
| ① (1, 1) | ② (2, 3) | ③ (0, 1) | ④ (2, 2) |
| ⑤ (0, -1) | ⑥ (-1, 5) | ⑦ (3, -1) | ⑧ (-2, -3) |

(2) 点 $(3, -3)$ については, $\frac{\partial^2 f}{\partial x^2}(3, -3) = \boxed{11}$ であり

$$\begin{vmatrix} \frac{\partial^2 f}{\partial x^2}(3, -3) & \frac{\partial^2 f}{\partial x \partial y}(3, -3) \\ \frac{\partial^2 f}{\partial y \partial x}(3, -3) & \frac{\partial^2 f}{\partial y^2}(3, -3) \end{vmatrix} = \boxed{12}$$

である. したがって, 関数 $f(x, y)$ は点 $(3, -3)$ で **13**.

11 ・ **12** の解答群

- | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| ① 0 | ② 1 | ③ 2 | ④ 3 | ⑤ 4 | ⑥ 5 | ⑦ 6 | ⑧ 7 |
| ⑨ -1 | ⑩ -2 | ⑪ -3 | ⑫ -4 | ⑬ -5 | ⑭ -6 | ⑮ -7 | |

13 の解答群

- | | | |
|----------|----------|-----------|
| ① 極大値をとる | ② 極小値をとる | ③ 極値をとらない |
|----------|----------|-----------|

計算用紙

問5 xy 平面内の集合 D が

$$D = \{(x, y) \mid 1 \leq x^2 + y^2 \leq 4, x + y \geq 0\}$$

で与えられているとき, 重積分

$$I = \iint_D \log \sqrt{x^2 + y^2} dx dy$$

の値を求める. 極座標変換 $x = r \cos \theta, y = r \sin \theta$ を行うと, 集合 D に対応する (r, θ) の集合は

$$E = \left\{ (r, \theta) \mid 1 \leq r \leq \boxed{14}, -\frac{\pi}{4} \leq \theta \leq \boxed{15} \right\}$$

であるから

$$I = \iint_E \boxed{16} dr d\theta = \int_{-\frac{\pi}{4}}^{\boxed{15}} \left(\int_1^{\boxed{14}} \boxed{16} dr \right) d\theta = \boxed{17} \pi$$

となる.

14 ・ **15** の解答群

- | | | | | | | |
|-------------------|-------------------|--------------------|---------|--------------------|--------------------|--------------|
| ① 0 | ② 1 | ③ 2 | ④ 3 | ⑤ 4 | ⑥ 8 | ⑦ $\sqrt{2}$ |
| ⑧ $\frac{\pi}{4}$ | ⑨ $\frac{\pi}{2}$ | ⑩ $\frac{3}{4}\pi$ | ⑪ π | ⑫ $\frac{5}{4}\pi$ | ⑬ $\frac{3}{2}\pi$ | ⑭ 2π |

16 ・ **17** の解答群

- | | | | |
|----------------------------|--------------------------------------|--------------------------|----------------------------|
| ① $\log r$ | ② $\frac{1}{2} \log r$ | ③ $r \log r$ | ④ $r^2 \log r$ |
| ⑤ $-\frac{1}{4}$ | ⑥ $-\frac{3}{4}$ | ⑦ $\log 2$ | ⑧ 2 |
| ⑨ $2 \log 2 - \frac{3}{4}$ | ⑩ $\frac{3}{2} \log 2 - \frac{3}{2}$ | ⑪ $\log 2 - \frac{3}{2}$ | ⑫ $\frac{3}{2} \log 2 - 1$ |

計算用紙

第2分野 線形代数

[問 1 ~ 問 5 : 解答番号 18 ~ 36]

(注意) 行列 A に対し, $\text{rank } A$ は A の階数 (ランク) を表す.

問 1 (1) 行列 A を

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 0 & 1 & 3 \\ 2 & 1 & 1 & 0 \\ 1 & 1 & 1 & -1 \\ 1 & 2 & 6 & -2 \end{pmatrix}$$

とする. このとき行列式 $|A|$ の値は 18 である. また, 逆行列 A^{-1} の $(1, 2)$ 成分は 19 である.

18 ・ 19 の解答群

- ① 0 ② 1 ③ 2 ④ 3 ⑤ 4 ⑥ 5 ⑦ 6 ⑧ 7
⑨ -1 ⑩ -2 ⑪ -3 ⑫ -4 ⑬ -5 ⑭ -6 ⑮ -7

(2) a, b を定数とする. 座標平面において, 点 (x, y) を点 (u, v) に移す線形写像 f を

$$\begin{pmatrix} u \\ v \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ a & -1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$$

により定める. f により直線 $y = -x + 1$ 上のすべての点が直線 $y = bx + 1$ 上に移るとき, $a = \text{20}$, $b = \text{21}$ である.

20 ・ 21 の解答群

- ① 0 ② 1 ③ 2 ④ 3 ⑤ 4 ⑥ 5 ⑦ 6 ⑧ 7
⑨ -1 ⑩ -2 ⑪ -3 ⑫ -4 ⑬ -5 ⑭ -6 ⑮ -7

計算用紙

問 2 3次元実ベクトル空間 \mathbb{R}^3 におけるベクトル $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$ を

$$\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 0 \\ 4 \\ 2 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{c} = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ s \end{pmatrix}$$

とおく. ただし, s は定数とする.

- (1) $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$ が 1 次独立になるのは $s \neq$ のときである.
- (2) $s =$ のとき, $\mathbf{c} =$ $\mathbf{a} +$ \mathbf{b} と表すことができる.
- (3) \mathbb{R}^3 の原点を O とし, $\overrightarrow{OA} = \mathbf{a}, \overrightarrow{OB} = \mathbf{b}$ となる点を A, B とする. このとき, 三角形 $\triangle OAB$ の面積は である.

~ の解答群

① 0

② 1 ③ 2 ④ 3 ⑤ $\frac{1}{4}$ ⑥ $\frac{3}{4}$ ⑦ $\frac{3}{2}$ ⑧ $\frac{5}{2}$

⑨ -1 ⑩ -2 ⑪ -3 ⑫ $-\frac{1}{4}$ ⑬ $-\frac{3}{4}$ ⑭ $-\frac{3}{2}$ ⑮ $-\frac{5}{2}$

計算用紙

問3 (1) A, B を2次の正方行列とする。このとき、以下の命題のうち真であるものをすべて選ぶと **26** である。

1. A, B が正則ならば、和 $A + B$ は正則である。
2. A, B が正則ならば、積 AB は正則である。
3. 積 AB が正則ならば、 A, B はどちらも正則である。
4. 対角行列は正則である。

26 の解答群

- | | | | |
|-----------|-----------|--------------|-----------|
| ① 1 | ② 2 | ③ 3 | ④ 4 |
| ⑤ 1, 2 | ⑥ 1, 3 | ⑦ 1, 4 | ⑧ 2, 3 |
| ⑨ 2, 4 | ⑩ 3, 4 | Ⓐ 1, 2, 3 | Ⓑ 1, 2, 4 |
| Ⓒ 1, 3, 4 | Ⓓ 2, 3, 4 | Ⓔ 1, 2, 3, 4 | |

(2) A, B, C を2次の正方行列とする。このとき、以下の命題のうち真であるものをすべて選ぶと **27** である。

5. 積 AB が零行列であるならば、 A, B のどちらか一方は零行列である。
6. A が零行列でないならば、 $AB = AC$ のとき $B = C$ が成り立つ。
7. すべての正の数 a に対して、 $|aA| = a|A|$ が成り立つ。
8. $|AB| = |A||B|$ が成り立つ。

27 の解答群

- | | | | |
|-----------|-----------|--------------|-----------|
| ① 5 | ② 6 | ③ 7 | ④ 8 |
| ⑤ 5, 6 | ⑥ 5, 7 | ⑦ 5, 8 | ⑧ 6, 7 |
| ⑨ 6, 8 | ⑩ 7, 8 | Ⓐ 5, 6, 7 | Ⓑ 5, 6, 8 |
| Ⓒ 5, 7, 8 | Ⓓ 6, 7, 8 | Ⓔ 5, 6, 7, 8 | |

計算用紙

問 4 連立 1 次方程式

$$(*) \quad \begin{cases} 2x + 3y + az = 1 \\ x + y + (1-b)z = 0 \\ y + abz = 2 \end{cases}$$

を考える。ただし、 a, b は定数とする。この方程式の係数行列 A 、拡大係数行列 B は

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 3 & a \\ 1 & 1 & 1-b \\ 0 & 1 & ab \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 2 & 3 & a & 1 \\ 1 & 1 & 1-b & 0 \\ 0 & 1 & ab & 2 \end{pmatrix}$$

である。

- (1) $\text{rank } B =$ である。
- (2) $a =$ または $b =$ のとき、 $\text{rank } A < \text{rank } B$ である。よって、方程式 (*) は 。
- (3) $a \neq$ かつ $b \neq$ のとき、 $\text{rank } A = \text{rank } B =$ である。よって、方程式 (*) は 。

~ の解答群

- ① 0 ② 1 ③ 2 ④ 3 ⑤ 4 ⑥ 5 ⑦ 6 ⑧ 7
 ⑨ -1 ⑩ -2 ⑪ -3 ⑫ -4 ⑬ -5 ⑭ -6 ⑮ -7

・ の解答群

- ① 解をもたない ② ただ 1 組の解をもつ ③ 無数の解をもつ

計算用紙

問5 行列 $A = \begin{pmatrix} 4 & 2 & 0 \\ 2 & 4 & 0 \\ -3 & a & 2 \end{pmatrix}$ の対角化について考える。ただし、 a は定数とする。

(1) A の固有多項式は

$$\begin{vmatrix} 4-x & 2 & 0 \\ 2 & 4-x & 0 \\ -3 & a & 2-x \end{vmatrix} = -(x-2)^2(x - \boxed{33})$$

である。したがって、 A の固有値は 2 (重複度 2) と $\boxed{33}$ となる。

(2) $a = \boxed{34}$ とする。このとき、固有値 2 に対する固有ベクトルとして

$$\mathbf{p}_1 = \begin{pmatrix} \boxed{35} \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{p}_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

がとれ、また固有値 $\boxed{33}$ に対する固有ベクトルとして

$$\mathbf{p}_3 = \begin{pmatrix} \boxed{36} \\ -2 \\ 3 \end{pmatrix}$$

がとれる。したがって、 $P = (\mathbf{p}_1 \ \mathbf{p}_2 \ \mathbf{p}_3)$ とおけば、行列 P は A を対角化する正則行列となる。実際に確かめると

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 2 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & \boxed{33} \end{pmatrix}$$

となる。

$\boxed{33} \sim \boxed{36}$ の解答群

- ① 0 ② 1 ③ 2 ④ 3 ⑤ 4 ⑥ 5 ⑦ 6 ⑧ 7
 ⑨ -1 ⑩ -2 ⑪ -3 ⑫ -4 ⑬ -5 ⑭ -6 ⑮ -7

計算用紙

第3分野 常微分方程式

[問 1 ~ 問 5 : 解答番号 37 ~ 52]

(注意) 各問における y は x の関数であり, y', y'' は y の導関数 $\frac{dy}{dx}, \frac{d^2y}{dx^2}$ を表す. すべての微分方程式は関数が定義される範囲で考える. また, 特殊解は特解ともいう.

問 1 微分方程式

$$(*) \quad yy' + 2x(y^2 + 1) = 0$$

について考える.

(1) $(*)$ の一般解は任意の正の定数 C を用いて

$$y^2 + 1 = C \quad \boxed{37}$$

で与えられる.

37 の解答群

- | | | | |
|-----------------------|------------------------|--------------|---------------|
| ① x^2 | ② $\log(x^2 + 1)$ | ③ e^{x^2} | ④ e^{-x^2} |
| ⑤ $\frac{1}{x^2 + 1}$ | ⑥ $\frac{1}{2x^2 + 1}$ | ⑦ e^{2x^2} | ⑧ e^{-2x^2} |

(2) $(*)$ の解 $y = y(x)$ が初期条件 $y(0) = 1$ を満たすとき

$$y = \quad \boxed{38}$$

である.

38 の解答群

- | | | |
|------------------------------|--------------------------|---------------------------|
| ① $2x^2 - 1$ | ② $\sqrt{2x^2 - 1}$ | ③ $2e^{-x^2}$ |
| ④ $\log(x^2 + 1) + 1$ | ⑤ $2e^{-x^2} - 1$ | ⑥ $2e^{-2x^2} - 1$ |
| ⑦ $\sqrt{\log(x^2 + 1) + 1}$ | ⑧ $\sqrt{2e^{-x^2} - 1}$ | ⑨ $\sqrt{2e^{-2x^2} - 1}$ |

計算用紙

問2 微分方程式

$$(*) \quad y' - \frac{x}{1+x^2}y = \frac{1}{\sqrt{1+x^2}}$$

について考える.

(1) $(*)$ に対応する同次方程式

$$y' - \frac{x}{1+x^2}y = 0$$

の一般解は, C を任意定数とすると

$$(**) \quad y = C \quad \boxed{39}$$

と表される.

39 の解答群

- | | | | |
|-------------------------|--------------------------|----------------|------------------|
| ① $1+x$ | ② $\sqrt{1+x}$ | ③ $1+x^2$ | ④ $\sqrt{1+x^2}$ |
| ⑤ $e^{\frac{x}{1+x^2}}$ | ⑥ $e^{-\frac{x}{1+x^2}}$ | ⑦ e^{x^2} | ⑧ e^{-x^2} |
| ⑨ $\log(1+x)$ | ⑩ $\log(1+x^2)$ | Ⓐ $\tan^{-1}x$ | Ⓑ $\sin^{-1}x$ |

(2) $(**)$ において, C を x の関数 $u(x)$ と置き換えて, $y = u(x) \cdot \boxed{39}$ を $(*)$ に代入すると

$$u' = \boxed{40}$$

が得られる. この方程式の一般解は, 任意定数 \tilde{C} を用いて $u(x) = \boxed{41} + \tilde{C}$ となるので, $(*)$ の一般解は

$$y = (\boxed{41} + \tilde{C}) \cdot \boxed{39}$$

である.

40 の解答群

- | | | | |
|----------------------------|----------------------------|-------------------------|----------------------|
| ① $\frac{x}{\sqrt{1+x^2}}$ | ② $\frac{u}{\sqrt{1+x^2}}$ | ③ $\frac{1}{1+x^2}$ | ④ $\frac{u}{1+x^2}$ |
| ⑤ $\frac{1}{1+x}$ | ⑥ $\frac{x}{1+ux}$ | ⑦ $\frac{1}{(1+x^2)^2}$ | ⑧ $\frac{1}{\tan x}$ |

41 の解答群

- | | | | |
|----------------------------|---------------------------|-------------------------|-----------------|
| ① $\sqrt{1+x^2}$ | ② $\frac{2}{\log(1+x^2)}$ | ③ $\frac{1}{1+x^2}$ | ④ e^{2x} |
| ⑤ $\frac{2}{\sqrt{1+x^2}}$ | ⑥ $\log(1+x^2)$ | ⑦ $\frac{1}{(1+x^2)^2}$ | ⑧ e^{-x^2} |
| ⑨ $\tan x$ | ⑩ $\tan^{-1} x$ | ⑪ $\sin x$ | ⑫ $\sin^{-1} x$ |

問 3 xy 平面上の曲線 $C : y = y(x)$ ($2 < x < 4$) は、点 $A(3, 3)$ を通り、 C 上の任意の点 $P(x, y)$ における C の接線は点 $P(x, y)$ と点 $B(3, 2)$ を通る直線に垂直であるとする。このとき、関数 $y(x)$ が満たす微分方程式を求めたい。

C 上の点 $P(x, y)$ における接線の傾きは $y'(x)$ であり、仮定より、この接線は点 $P(x, y)$ と点 $B(3, 2)$ を通る直線に垂直なので、関数 $y(x)$ は微分方程式

(*) $y' = \boxed{42}$

を満たす。

よって、微分方程式 (*) を解き、 C が点 $A(3, 3)$ を通ることを用いると、 C 上の任意の点 $P(x, y)$ は $\boxed{43}$ を満たす。 C は xy 平面上の $\boxed{44}$ の一部を表す。

42 の解答群

- | | | | |
|---------------------|----------------------|---------------------|----------------------|
| ① $\frac{y}{x}$ | ② $-\frac{y}{x}$ | ③ $\frac{x}{y}$ | ④ $-\frac{x}{y}$ |
| ⑤ $\frac{y-2}{x-3}$ | ⑥ $-\frac{y-2}{x-3}$ | ⑦ $\frac{y-3}{x-2}$ | ⑧ $-\frac{y-3}{x-2}$ |
| ⑨ $\frac{x-3}{y-2}$ | ⑩ $-\frac{x-3}{y-2}$ | ⑪ $\frac{x-2}{y-3}$ | ⑫ $-\frac{x-2}{y-3}$ |

43 の解答群

- | | | |
|-----------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------|
| ① $y = 2x - 3$ | ② $y = -\frac{1}{2}x + 3$ | ③ $(x-3)^2 + (y-2)^2 = 1$ |
| ④ $y = \frac{1}{8}x^2$ | ⑤ $y^2 = 2x$ | ⑥ $(x-3)^2 - (y-2)^2 = 1$ |
| ⑦ $x^2 + y^2 = 20$ | ⑧ $x^2 - y^2 = 12$ | ⑨ $(x-3)^2 + (y-2)^2 = 3$ |
| ⑩ $y = \frac{1}{2}(e^x + e^{-x})$ | ⑪ $\frac{x^2}{3} + \frac{y^2}{2} = 1$ | ⑫ $(x^2 + y^2)^2 = 4(x^2 - y^2)$ |

44 の解答群

- | | | | |
|-----------|-------|-------|-------|
| ① 直線 | ② 円 | ③ 双曲線 | ④ 放物線 |
| ⑤ レムニスケート | ⑥ 懸垂線 | | |

計算用紙

問 4 微分方程式

$$(*) \quad y'' + \frac{9}{4}y = 0$$

について考える.

(1) $(*)$ の一般解 $y(x)$ は任意定数 C_1, C_2 を用いて $y(x) =$ 45 と表される.

45 の解答群

- | | |
|---|---|
| ① $C_1 e^{-\frac{9}{4}x} + C_2 e^{\frac{9}{4}x}$ | ① $C_1 e^{-\frac{3}{2}x} + C_2 e^{\frac{3}{2}x}$ |
| ② $C_1 + C_2 e^{-\frac{9}{4}x}$ | ③ $C_1 e^{\frac{3}{2}x} + C_2 x e^{\frac{3}{2}x}$ |
| ④ $C_1 \cos \frac{9}{4}x + C_2 \sin \frac{9}{4}x$ | ⑤ $C_1 \cos \frac{3}{2}x + C_2 \sin \frac{3}{2}x$ |

(2) (1) で求めた $(*)$ の解 $y(x)$ が, 条件

$$y(0) = 0, \quad y(\pi) < 0, \quad \int_0^\pi y(x)^2 dx = 1$$

を満たすとき

$$C_1 = \text{46}, \quad C_2 = \text{47}$$

である.

46 ・ 47 の解答群

- | | | | | | |
|-------------------|-------------------|----------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| ① 0 | ① 1 | ② π | ③ π^2 | ④ $\frac{\pi}{2}$ | ⑤ $\frac{\pi^2}{4}$ |
| ⑥ $\frac{1}{\pi}$ | ⑦ $\frac{2}{\pi}$ | ⑧ $\sqrt{\pi}$ | ⑨ $\sqrt{\frac{\pi}{2}}$ | Ⓐ $\sqrt{\frac{1}{\pi}}$ | Ⓑ $\sqrt{\frac{2}{\pi}}$ |

計算用紙

問5 微分方程式

$$(*) \quad y'' + 2y' + 5y = \cos \omega x$$

について考える。ただし、 ω は正の実数である。

- (1) $y_p(x) = C_1 \cos \omega x + C_2 \sin \omega x$ が $(*)$ の特殊解になるように、定数 C_1, C_2 を定める。 $y_p(x)$ を $(*)$ へ代入し、 $\cos \omega x$ と $\sin \omega x$ の係数をそれぞれ比較すると、係数行列を用いて C_1 と C_2 に関する連立方程式

$$\begin{pmatrix} \boxed{48} & \boxed{49} \\ -\boxed{49} & \boxed{48} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} C_1 \\ C_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$$

を得る。係数行列の逆行列が存在するので

$$\begin{pmatrix} C_1 \\ C_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \boxed{48} & \boxed{49} \\ -\boxed{49} & \boxed{48} \end{pmatrix}^{-1} \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$$

となり、 $C_1 = \frac{\boxed{48}}{\boxed{50}}$ 、 $C_2 = \frac{\boxed{49}}{\boxed{50}}$ を得る。

48 ・ **49** の解答群

- ① 2ω ② -2ω ③ $4\omega^2$ ④ $\frac{2}{\omega}$ ⑤ $-\frac{2}{\omega}$
 ⑥ $\omega^2 - 5$ ⑦ $5 - \omega^2$ ⑧ $(5 - \omega^2)^2$ ⑨ $\frac{1}{\omega^2 - 5}$ ⑩ $\frac{1}{5 - \omega^2}$

50 の解答群

- ① 2ω ② -2ω ③ $\omega^2 - 5$ ④ $5 - \omega^2$
 ⑤ $-\omega^2 + 2\omega + 5$ ⑥ $-\omega^2 - 2\omega + 5$ ⑦ $4\omega^2$ ⑧ $(5 - \omega^2)^2$
 ⑨ $(5 - \omega^2)^2 + 4\omega^2$ ⑩ $(-\omega^2 + 2\omega + 5)^2$ ⑪ $5 + \omega^2$ ⑫ $(5 + \omega^2)^2$

(2) 三角関数の合成より, (1) で求めた y_p は

$$I = \frac{1}{\sqrt{\boxed{50}}}, \quad \sin \phi = \frac{\boxed{48}}{\sqrt{\boxed{50}}}, \quad \cos \phi = \frac{\boxed{49}}{\sqrt{\boxed{50}}}$$

を用いて $y_p(x) = I \sin(\omega x + \phi)$ と表せる.

ω を正の実数全体を動かすことで, I を ω の関数 $I(\omega)$ と考える. このとき, $I(\omega)$ は $\omega = \boxed{51}$ で最大値 $\boxed{52}$ をとる.

51 ・ **52** の解答群

- ① 0 ② 1 ③ 2 ④ 3 ⑤ 4 ⑥ 5 ⑦ $\sqrt{2}$ ⑧ $\sqrt{3}$
⑨ $\sqrt{5}$ ⑩ $\frac{1}{2}$ ⑪ $\frac{1}{3}$ ⑫ $\frac{1}{4}$ ⑬ $\frac{1}{5}$ ⑭ $\frac{1}{\sqrt{2}}$ ⑮ $\frac{1}{\sqrt{3}}$ ⑯ $\frac{1}{\sqrt{5}}$

第4分野 確率・統計

〔問1～問4：解答番号 53 ～ 71〕

(注意) 事象 A に対し、 $P(A)$ は A の起こる確率を表す。また、確率変数 X に対し、 $E(X)$ 、 $V(X)$ はそれぞれ期待値 (平均、平均値)、分散を表す。

問1 (1) 確率変数 X, Y の確率分布がそれぞれ

X の値	-3	0	2
確率	a	0.3	b

Y の値	-1	4
確率	0.6	0.4

(a, b は定数)

で与えられていて、 $E(X) = 0.4$ が成り立つとする。このとき、 $a =$ 53 である。また $V(-Y) =$ 54 である。さらに、 X, Y が独立であれば

$$P(XY = -2) = \text{55}, \quad E(XY) = \text{56}$$

である。

53 ・ 55 ・ 56 の解答群

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ① 0 | ② 0.1 | ③ 0.2 | ④ 0.3 | ⑤ 0.4 | ⑥ 0.5 |
| ⑦ 0.6 | ⑧ 0.7 | ⑨ 0.8 | ⑩ 0.9 | ⑪ a | ⑫ 1 |

54 の解答群

- | | | | | | |
|------|------|------|------|-----|------|
| ① 0 | ② 1 | ③ 2 | ④ 6 | ⑤ 7 | ⑥ 8 |
| ⑦ -1 | ⑧ -2 | ⑨ -6 | ⑩ -7 | ⑪ a | ⑫ -8 |

(2) 確率変数 Z の確率密度関数 $f(x)$ が、定数 c によって

$$f(x) = \begin{cases} ce^{-2(x-1)}, & x \geq 1, \\ 0, & x < 1 \end{cases}$$

で与えられている。このとき、 $c = \boxed{57}$ であり、 $E(Z) = \boxed{58}$ が成り立つ。
また

$$P(-2 < Z \leq \boxed{59}) = 1 - e^{-6}$$

である。

57 ~ **59** の解答群

- | | | | | | |
|-----|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| ① 0 | ② 1 | ③ 2 | ④ 3 | ⑤ 4 | ⑥ 6 |
| | ⑦ $\frac{1}{2}$ | ⑧ $\frac{3}{2}$ | ⑨ $\frac{1}{3}$ | ⑩ $\frac{2}{3}$ | ⑪ $\frac{1}{6}$ |
| | ⑫ e^{-2} | ⑬ e^{-3} | ⑭ e^{-6} | ⑮ $\log 2$ | ⑯ $\log 3$ |

問 2 2つの事象 A, B に対し

$$P(A) = P(B) = \frac{1}{3}, \quad P(A \cup B) = \frac{1}{2}$$

とする.

- (1) $P(A \cap B) =$ であり, A と B は .
- (2) 事象 C が $P(C) = \frac{1}{8}$ かつ $C \subset A \cap B$ を満たすとき, $A \cap B$ が起こったときの C が起こる条件付き確率は $P(C|A \cap B) =$ である.

・ の解答群

- | | | | | |
|-----|-----------------|-----------------|------------------|------------------|
| ① 0 | ② 1 | ③ $\frac{1}{2}$ | ④ $\frac{1}{3}$ | ⑤ $\frac{2}{3}$ |
| | ⑥ $\frac{1}{4}$ | ⑦ $\frac{3}{4}$ | ⑧ $\frac{1}{5}$ | ⑨ $\frac{1}{6}$ |
| | ⑩ $\frac{1}{8}$ | Ⓐ $\frac{3}{8}$ | Ⓑ $\frac{1}{12}$ | Ⓒ $\frac{5}{12}$ |

の解答群

- | | |
|----------------|------------------|
| ① 独立である | ② 従属である (独立ではない) |
| ③ 独立とも従属ともいえない | |

計算用紙

問3 サイコロを1回投げたとき、1の目が出る確率は $\frac{1}{6}$ であるとする。このサイコロを初めて1の目が出るまで繰り返し投げたとき、その回数を表す確率変数を X とする。

(1) X の確率分布は $P(X = k) = \boxed{63}$ ($k = 1, 2, \dots$)である。

(2) サイコロを k 回投げて、一度も1の目が出ない確率は $P(X > k) = \boxed{64}$ であり、偶数回目に初めて1の目が出る確率は $\sum_{k=1}^{\infty} P(X = 2k) = \boxed{65}$ である。

(3) 初めて1の目が出るまで投げた回数の期待値は

$$\sum_{k=1}^{\infty} kx^{k-1} = \frac{1}{(1-x)^2} \quad (|x| < 1)$$

であることを用いると、 $E(X) = \boxed{66}$ である。

63 ・ **64** の解答群

- | | | |
|------------------------------------|--------------------------------|---|
| ① $\frac{1}{6^{k-1}}$ | ① $\frac{1}{6^k}$ | ② $\frac{1}{6^{k+1}}$ |
| ③ $\frac{5}{6^{k-1}}$ | ④ $\frac{5}{6^k}$ | ⑤ $\frac{5}{6^{k+1}}$ |
| ⑥ $\left(\frac{5}{6}\right)^{k-1}$ | ⑦ $\left(\frac{5}{6}\right)^k$ | ⑧ $\left(\frac{5}{6}\right)^{k+1}$ |
| ⑨ $\frac{5^{k-1}}{6^k}$ | ⑨ $\frac{5^k}{6^{k+1}}$ | ⑩ $\frac{6!}{k!(6-k)!} \cdot \frac{5^{6-k}}{6^k}$ |

65 ・ **66** の解答群

- | | | | | |
|------------------|------------------|------------------|-------------------|-------------------|
| ① 0 | ① 1 | ② 2 | ③ 6 | ④ 30 |
| ⑤ 36 | ⑥ $\frac{1}{2}$ | ⑦ $\frac{6}{5}$ | ⑧ $\frac{1}{6}$ | ⑨ $\frac{5}{6}$ |
| ⑩ $\frac{5}{11}$ | ⑪ $\frac{6}{11}$ | ⑫ $\frac{6}{25}$ | ⑬ $\frac{36}{25}$ | ⑭ $\frac{25}{36}$ |

計算用紙

問 4 S 町では、毎年ある品種の柿^{かき}を生産し、全国に出荷をしている。今年収穫した柿 1 個あたりの重さの平均を μ g とする。いま、何個かの柿を無作為に選びそれぞれの重さを測定したとき、 μ の値に関する信頼度 95% の信頼区間について考える。柿 1 個あたりの重さは正規分布に従い、その標準偏差は 15 g であるとする。まず、標本の個数を n とし、それぞれの重さを表す確率変数を X_1, X_2, \dots, X_n とすると、これらは互いに独立であり、いずれも正規分布 $N(\mu, 15^2)$ に従う。よって、標本平均

$$\bar{X} = \frac{X_1 + X_2 + \dots + X_n}{n}$$

は正規分布 $N(\boxed{67}, \boxed{68})$ に従う。そこで

$$Z = \frac{\bar{X} - \mu}{\boxed{69}}$$

とおけば、 Z は標準正規分布 $N(0, 1)$ に従う確率変数である。正規分布表から

$$P(|Z| \leq 1.96) \doteq 0.95$$

であることがわかり

$$P\left(\bar{X} - \boxed{70} \leq \mu \leq \bar{X} + \boxed{70}\right) \doteq 0.95$$

を得る。これは、選んだ柿の重さがそれぞれ x_1, x_2, \dots, x_n (単位: g) であれば、 \bar{X} の実現値は $\bar{x} = \frac{1}{n}(x_1 + x_2 + \dots + x_n)$ であり、 μ の信頼度 95% の信頼区間は

$$\left[\bar{x} - \boxed{70}, \bar{x} + \boxed{70}\right]$$

となることを意味する。この信頼区間の幅は $2 \times \boxed{70}$ である。信頼度を変えずに標本の個数 n を 10 倍にすると信頼区間の幅は $\boxed{71}$ 倍になる。

67 の解答群

- | | | | | |
|-------------------|-----------|------------|------------|---------------------|
| ① 0 | ② 1 | ③ μ | ④ 2μ | ⑤ $n\mu$ |
| ⑥ $\frac{\mu}{n}$ | ⑦ μ^2 | ⑧ $2\mu^2$ | ⑨ $n\mu^2$ | ⑩ $\frac{\mu^2}{n}$ |

68 ・ 69 の解答群

- ① 15 ② 15^2 ③ $\sqrt{15}$ ④ $15n$ ⑤ 15^2n
- ⑥ $\sqrt{15}n$ ⑦ $15n^2$ ⑧ 15^2n^2 ⑨ $15\sqrt{n}$ ⑩ $\frac{15}{n}$
- Ⓐ $\frac{15^2}{n}$ Ⓑ $\frac{15}{n^2}$ Ⓒ $\frac{15^2}{n^2}$ Ⓓ $\frac{15}{\sqrt{n}}$ Ⓔ $\sqrt{\frac{15}{n}}$

70 の解答群

- ① 0.025 ② 0.05 ③ 5.88 ④ 29.4 ⑤ 58.8
- ⑥ $5.88n$ ⑦ $29.4n$ ⑧ $58.8n$ ⑨ $\frac{5.88}{n}$ ⑩ $\frac{29.4}{n}$
- Ⓐ $\frac{58.8}{n}$ Ⓑ $\frac{5.88}{\sqrt{n}}$ Ⓒ $\frac{29.4}{\sqrt{n}}$ Ⓓ $\frac{58.8}{\sqrt{n}}$

71 の解答群

- ① 1 ② 10 ③ 20 ④ 100
- ⑤ $\frac{1}{5}$ ⑥ $\frac{1}{10}$ ⑦ $\frac{1}{50}$ ⑧ $\frac{1}{100}$
- ⑨ $\sqrt{10}$ ⑩ $2\sqrt{10}$ Ⓐ $\frac{1}{\sqrt{10}}$ Ⓑ $\frac{2}{\sqrt{10}}$